

技術ノート KGTN 2015050701

現象

[GGH5.X] GGH4.X と比較して GGH5.X はどのような点が違うのか？

説明

GGW3.X → GGH4.X では、アプリケーション配信のアーキテクチャ等が全面的に変更されたため、全く互換性がありませんでした。今回の GGH4.X → GGH5.X では、このような全面的な変更はありませんので、新機能や不具合修正の部分等を除き、相互に互換性があります（注意：Windows Server 2008 (32bit/64bit) はサポート対象外となりました。なお、Windows Server 2008 R2 (64bit) については従来通りサポート対象です。）。GGH5.0 の新機能は以下の通りです。

1. 一般ユーザー向けクライアント

GGH5.X のクライアント（Windows クライアントとアドオン）は、管理者権限を持たない一般ユーザーでもインストール出来るようになりました。新しいインストーラーは、ウェブサーバー上の **WebClients** ディレクトリに配置されています。

- * **gg-client.desktop.exe**: 従来の Windows クライアントに相当
- * **gg-client.chrome.exe**: Chrome 用のアドオン
- * **gg-client.firefox.exe**: Firefox 用のアドオン
- * **gg-client.ie.exe**: 従来の ActiveX クライアントに相当

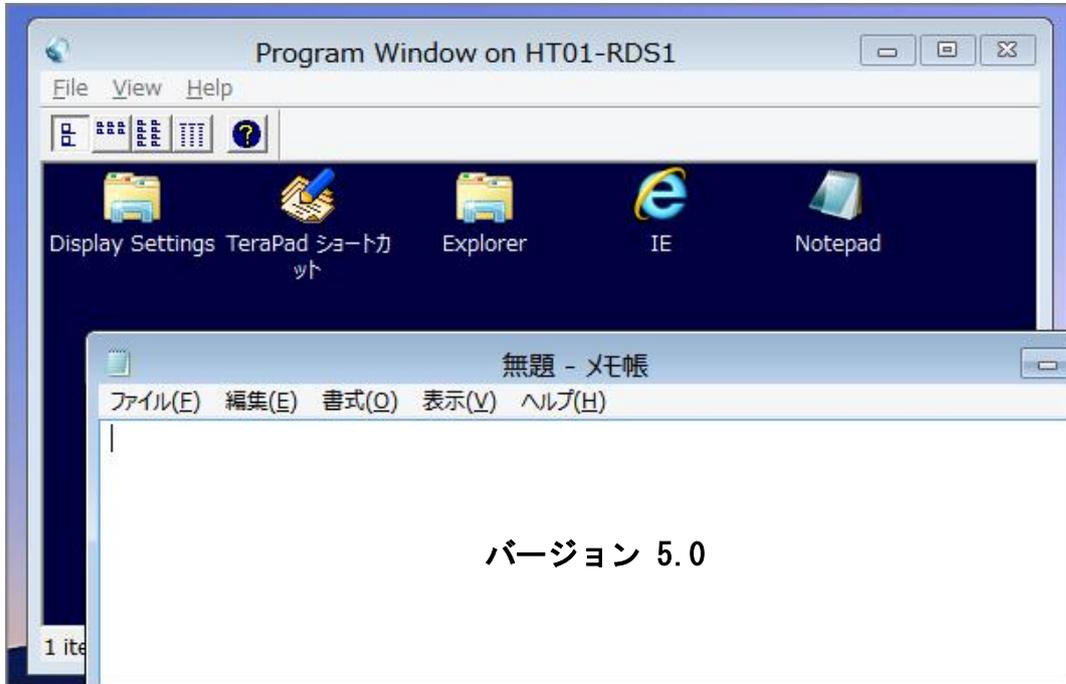
これらのインストーラーは **%LOCALAPPDATA%\GraphOn\GO-Global\Client** ディレクトリにクライアントの実行ファイルをインストールします。アドオンのインストール完了後にブラウザを再起動すると、以下のような URL（サンプル）を介して GG サーバーへアクセス出来るようになります。

<http://???/logon.html?host=192.168.102.30&user=Administrator&password=myPass>



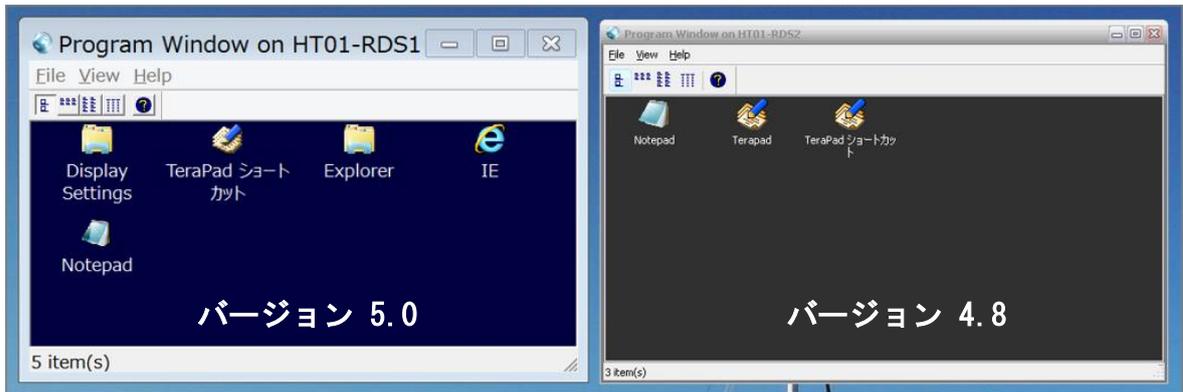
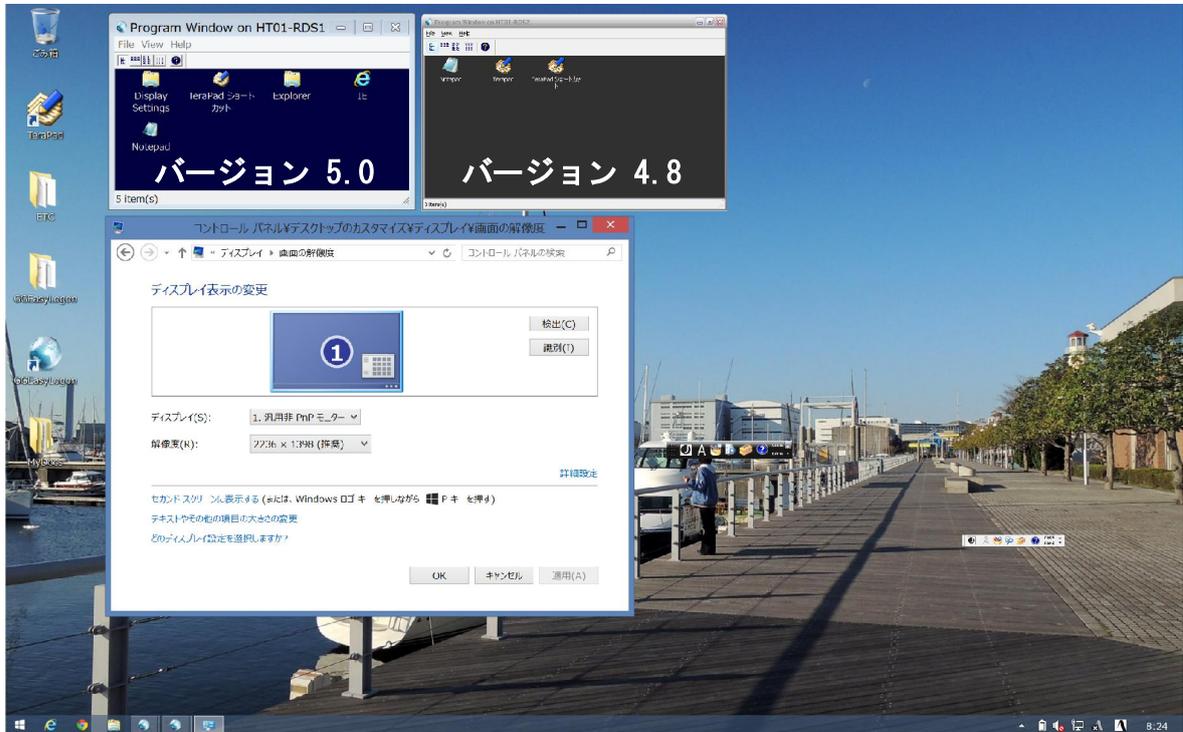
2. Windows テーマ対応

Windows 7 またはそれ以降のクライアント環境で、サーバー側で指定されたテーマでアプリケーションが表示されるようになりました。



3. 高解像度ディスプレイ対応

クライアント側の文字等のサイズ設定が、GG 上で動作するアプリケーションにも反映されるようになりました (DPI スケーリング)。下記の例では、拡大表示 (テキスト等) の設定が、バージョン 5.0 のみに反映されています。



4. Windows デスクトップのサポート

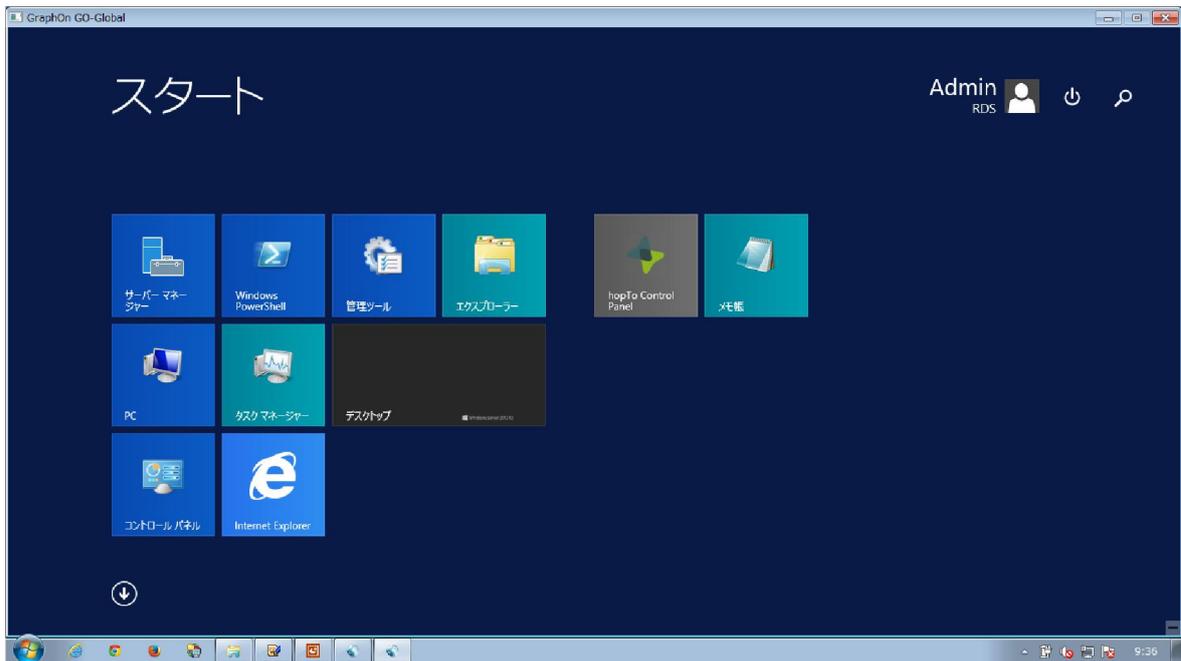
Windows デスクトップ（スタートメニューやタスクバーなど）にアクセス出来るようになりました。Windows デスクトップにアクセスするには、以下のパラメタを追加して下さい。

* コマンドライン: `-desktop`

* アドオン: `&desktop=true`

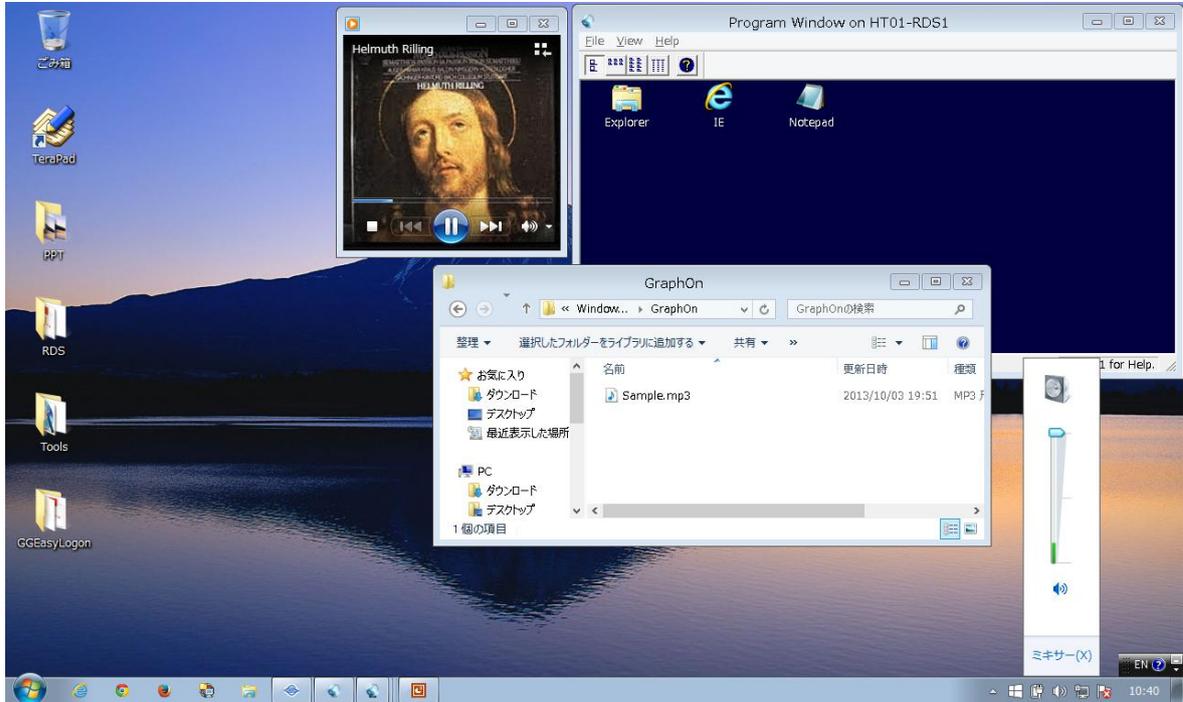
セッションの切断は、セッションのウインドウ(デスクトップの枠)を閉じて下さい。セッションの終了は、デスクトップで「ログオフ」または「サインアウト」処理を行って下さい。

管理者は、設定ファイル `HostProperties.xml` 中の `AllowDesktop` プロパティに `false` を指定することで、この Windows デスクトップ機能を無効にすることが出来ます（既定値は `false` です）。



5. オーディオ機能の改良

WS2012R2 の環境で、セッション毎に仮想オーディオデバイスがサポートされました。これにより、メールに添付された mp3 形式の音声ファイル等を再生することが可能になりました。



6. 自動セッション再接続機能

クライアントのパラメタに自動セッション再接続機能が追加されました。下記のパラメタを指定することで、ネットワーク障害等によりサーバー〜クライアント間でセッションが切断された時に、自動的にサスペンド状態にあるセッションに所定回数だけ (x で回数を指定) 再接続を試みます。再接続の試行時に、下記の再接続ダイアログは表示されません。

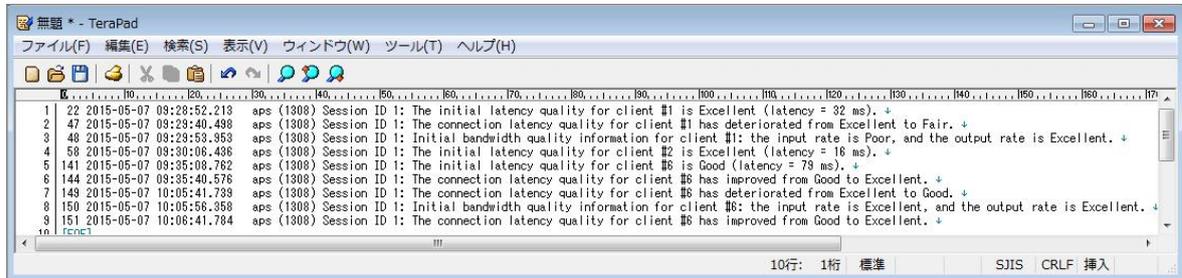
* コマンドライン: `-autoreconnect x`

* アドオン: `&autoreconnect=x`



7. 通信品質監視機能

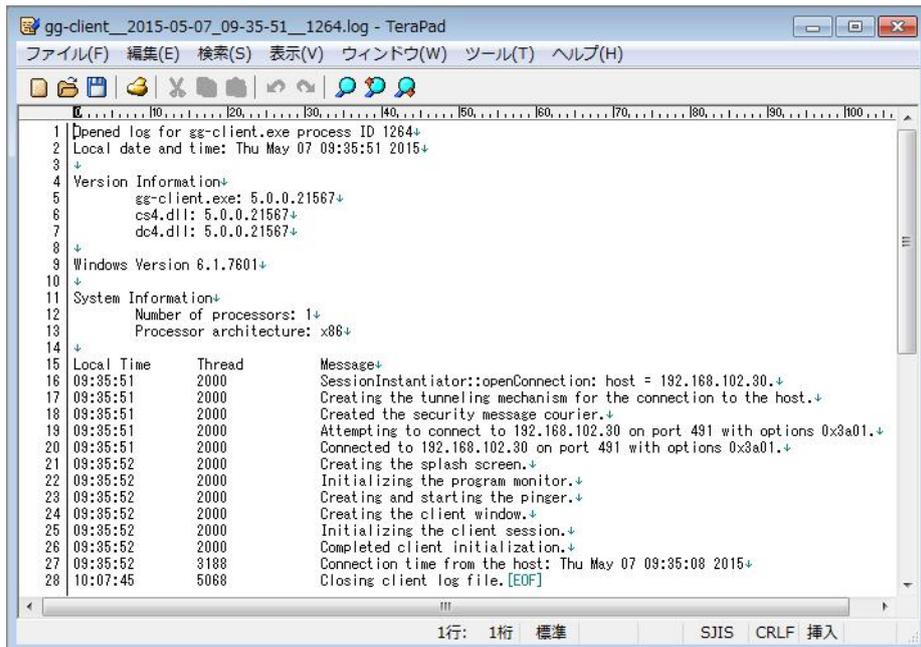
サーバー〜クライアント間の通信「品質」を監視する機能が追加されました。この機能により一時的なネットワークの遅延やサーバーやクライアントの過負荷による遅延等に関する情報も APS ログに記録されますので、障害解析等を効率的に行えるようになります。



```
1 22 2015-05-07 09:28:52.213 aps (1308) Session ID 1: The initial latency quality for client #1 is Excellent (latency = 32 ms). +
2 47 2015-05-07 09:29:40.498 aps (1308) Session ID 1: The connection latency quality for client #1 has deteriorated from Excellent to Fair. ↓
3 48 2015-05-07 09:29:53.953 aps (1308) Session ID 1: Initial bandwidth quality information for client #1: the input rate is Poor, and the output rate is Excellent. ↓
4 58 2015-05-07 09:30:06.436 aps (1308) Session ID 1: The initial latency quality for client #2 is Excellent (latency = 16 ms). +
5 141 2015-05-07 09:35:08.762 aps (1308) Session ID 1: The initial latency quality for client #8 is Good (latency = 79 ms). +
6 144 2015-05-07 09:35:40.576 aps (1308) Session ID 1: The connection latency quality for client #8 has improved from Good to Excellent. +
7 149 2015-05-07 10:05:41.739 aps (1308) Session ID 1: The connection latency quality for client #8 has deteriorated from Excellent to Good. ↓
8 150 2015-05-07 10:05:58.388 aps (1308) Session ID 1: Initial bandwidth quality information for client #8: the input rate is Excellent, and the output rate is Excellent. ↓
9 151 2015-05-07 10:06:41.794 aps (1308) Session ID 1: The connection latency quality for client #8 has improved from Good to Excellent. +
```

8. クライアント側ログファイル

従来のクライアントではクライアントのログをサーバー側に保存していましたが、接続障害等が発生した場合に情報が記録されないという問題がありました。GGH5.X のクライアントでは、%APPDATA%\%GraphOn¥Logs ディレクトリにログファイルを作成するようになりました。



```
1 Opened log for gg-client.exe process ID 1264+
2 Local date and time: Thu May 07 09:35:51 2015+
3 ↓
4 Version Information+
5   gg-client.exe: 5.0.0.21567+
6   cs4.dll: 5.0.0.21567+
7   dc4.dll: 5.0.0.21567+
8 ↓
9 Windows Version 6.1.7601+
10 ↓
11 System Information+
12   Number of processors: 1+
13   Processor architecture: x86+
14 ↓
15 Local Time      Thread      Message+
16 09:35:51        2000        SessionInstantiator::openConnection: host = 192.168.102.30.+
17 09:35:51        2000        Creating the tunneling mechanism for the connection to the host.+
18 09:35:51        2000        Created the security message courier.+
19 09:35:51        2000        Attempting to connect to 192.168.102.30 on port 491 with options 0x3a01.+
20 09:35:51        2000        Connected to 192.168.102.30 on port 491 with options 0x3a01.+
21 09:35:52        2000        Creating the splash screen.+
22 09:35:52        2000        Initializing the program monitor.+
23 09:35:52        2000        Creating and starting the pinger.+
24 09:35:52        2000        Creating the client window.+
25 09:35:52        2000        Initializing the client session.+
26 09:35:52        2000        Completed client initialization.+
27 09:35:52        3188        Connection time from the host: Thu May 07 09:35:08 2015+
28 10:07:45        5068        Closing client log file. [EOF]
```